

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的に学び、確かな学力を身につける児童の育成  
— 思考力の育成をめざして —

【小中連携または中高連携における共通の取組】

主体的に学習に取り組む児童、生徒を育むための ICT の活用や指導方法の工夫改善

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

計画的な授業研究会や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習態度は真面目である。 ○漢字の読み書きや計算の基礎基本については、ある程度の定着率が見られる。 ●語彙数が少なく、話していることを聞き取ったり、問題を読み取ったりする力が弱い。 ●文章を書く力の差が大きい。	①基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ②語彙数を増やし、正確に文章を読んだり書いたりすることができる。	①ドリルタイムに漢字と計算を継続的に指導し、確認テストを行う。 ②学年に応じた言葉を示したり、模範ノートコーナーに掲示したりして、日記やノート指導の充実をはかる。 ③専科や教科担任制を取り入れ専門性を高めることにより、基礎基本の定着を図る。		①ドリルタイムに漢字と計算指導を継続し、確認テストも行うことできた。 ②日記指導やノート指導に役立つ掲示を作成したことで、書いて考えを表す指導も工夫しているが、まだ充分とはいえない。 ③教科担任制は1学年しかできなかったが、専科(英・音)は成果が上がった。	年度末に行った学力向上検討委員会において、次年度は全校で、より細かに統一したノート指導を行うことにした。 国語力タスクフォースから「深い学びにつながる3つの発問」に重点を置いて指導することによって語彙数を増やしていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループ学習で、自分の思いや考えを伝え合う姿が増えてきている。 ●自分の考えを根拠を明らかにして順序立てて話すことに苦手意識がある。 ●目的や条件に応じて文章を書くことが苦手である。	目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の思いや考えを表現することができる。	①朝の会での1分間スピーチや各教科等の時間において「話す」ことを意図的・計画的に設ける。 ②各教科等の時間の問題解決の場で、「書く」ことをさせる。 ③ICTや思考ツールを活用し、考える力を育てる指導方法を工夫する。 ④読み聞かせや読書の時間を確保する。	④週1時間担任の読み聞かせをしたり、週末読書に取り組ませたりする。	①スピーチやグループ学習を行い、話す機会を適切に設定できた。 ②、③デジタル模造紙や思考ツールを使って、自分の考えを整理分析したり、まとめたりすることができた。 ④読み聞かせは行うことができているが、週末読書に関しては一部の学年にとどまっている。	今年度タブレット端末が児童一人一人に配布され、次年度はそれを思考力育成のために活用できるように研修を深めていきたい。端末の操作の仕方の研修にとどまらず、ICTを活用して思考力を深める研究授業も行い、最適な手法を選んで指導できるようにしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決められた活動や与えられた課題に真面目に取り組む児童が多い。 ○ほとんどの児童に家庭学習の習慣が定着している。 ●学習ルールが定着しない児童もいる。 ●自ら課題を設定したり、自分なりの方法で追究しようとする意欲が少ない。	①課題に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや喜びを感じることができる。 ②学習ルールを身につけ、きちんと取り組むことができる。	①学校・学年で共通理解し、学習ルールの指導を徹底する。 ②ICTを活用し、学習意欲を向上させる。 ③「学習ヒント集」を活用させ家庭との連携を取り、意欲的に家庭学習に取り組めるようにする。	③全校「学習ヒント集」を活用させ、さらに中・高学年は自主学習に取り組ませる。	①概ね学習ルールが定着し、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ②デジタル教科書やタブレット端末を活用することで、学習に対する意欲は向上した。 ③自主学習も含めほとんどの児童が意欲的に家庭学習に取り組んでいるが、学年が進むにつれ個人差が大きい。	家庭学習(自主学習も含む)の達成状況が視覚的に分かるように掲示等工夫をする。 ICT活用で主体的に学習に取り組む効果があったので、さらに活用する場面も増やしていく。

令和3年度 学力向上ロードマップ

